
プロジェクト **企業結合 — 開示、のれん及び減損**

項目 **第 143 回 ASAF 対応専門委員会で聞かれた意見**

本資料の目的

1. 本資料は、第 143 回 ASAF 対応専門委員会（2024 年 5 月 14 日開催）で聞かれた意見をまとめたものである。

ASBJ 事務局の気付事項

（全体に対する意見）

2. 事務局提案の方向性に同意する。
3. 適用後レビューの発見事項として、「一部の利用者は、減損損失の認識を企業結合が成功ではなかったことの確認と解釈していると述べた」とされている点について、減損のみのアプローチを採用している場合に減損損失の認識を企業結合が成功ではなかったとすることは行き過ぎた解釈であり、否定するコメントがあってもよいと考える。
4. 公開草案の提案については、実務での適用に懸念を持つ部分が多く、シナジーに関する定量的情報の開示等の公開草案の提案をより実行可能なものとするためのコメントもすべきと考える。

（企業結合の業績に関する情報の開示）

5. 公開草案が求める内容は財務諸表利用者として賛成であるが、情報の開示場所を財務諸表外とすべきとの気付事項は理解できる。例えば、IFRS 実務記述書「経営者による説明」において公開草案の内容を含め、資本市場の規制当局にエンドースメントを働きかけることを提案することも考えられる。
6. 企業結合の業績に関する情報の開示場所について、経営者の企業結合への期待や想定と併せて提供される方が財務諸表利用者の理解に役立つと考えられるとする事務局提案に同意するが、公開草案の結論の根拠において反論されていることも踏まえて、より具体的に開示場所を財務諸表外とすることが適切となる要素を追加して補強すべきと考える。例えば、前項の意見のように、経営者による説明において開示することがより適切であることを説明することが考えられる。

(のれんの償却の再導入)

7. 減損のみのアプローチを維持することにより、のれんの残高は今後も増加していくと考えられるが、のれんの残高が増加し続けているという問題は改めて対応すべき問題となる可能性があり、その議論の中で、減損のみのモデルに代わり償却を基礎としたモデルを再度提案することが良いと考える。
8. シナジーの持続期間の開示をやみくもに否定するよりも、開示を定着させ、今後、のれんの残高が増加しているという問題への対応の中で、のれん償却の再導入に関する検討へ繋げていく考え方もあるのではないか。

(シナジーに関する定量的情報の開示)

9. シナジーに関する定量的情報は、企業の事業に対する価値判断を示すものであり、このような主観的な情報を検証可能性や比較可能性が大切な要素である制度開示に含めることは疑問である。監査可能性や基本財務諸表プロジェクトにおいて比較可能性の担保が困難であることから取り下げられた通例でない取引の議論も踏まえて、財務諸表の注記として開示することの是非を問うコメントとすることが考えられる。
10. シナジーに関する定量的情報の開示を財務諸表の注記で記載することについて、監査コストがかかることを懸念する。情報に対する財務諸表利用者のニーズは理解できるが、監査コスト等の社会的なコストとのバランスも考慮すべきと考える。
11. シナジーに関する定量的情報の開示は、主観的で将来の予想を反映した情報となるため、開示内容に幅が生じてしまうことを懸念する。また戦略的に重要な企業結合が対象になるとしても、のれんの減損損失の認識が遅すぎないことを示す情報を具体的にどのように開示すべきかについて明らかでない点を懸念する。
12. 財務諸表利用者にとって参考となる開示の好事例を示すことは有用と考える。

以 上